

ROTOBO

Connecting Markets

ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ROTOBO

2025年(令和7年)11月5日号 No.2006

目次

■ ロシアによる「中央アジアプラス1」外交	1
■ 統計速報	6
2025年1～8月のロシアの貿易／6	
■ キーパーソン	7
モルドバで新首相・新内閣発足／7	
■ エトセトラ	8
第12回日本モンゴル官民合同協議会開催のお知らせ／8	
■ トピックス	9
日本旅行、ウズベクとキルギスの大学とMoU締結／9	
日・トルクメニスタン租税条約が発効／9	
住友商事、ウズベク再エネ事業に融資／9	

ロシアによる「中央アジアプラス1」外交

(一社) ROTOBO ロシアNIS経済研究所
研究員 齋藤 竜太

はじめに

今号では2025年10月9日、タジキスタン・ドゥシャンベにて第2回中央アジアプラスロシア首脳会合が開催されたことを踏まえ、ロシアによる「中央アジアプラス1」外交枠組みを取り上げる。

「中央アジアプラス1」についてはロシアだけでなく、欧州連合(EU)や中国、米国なども同様の外交枠組みを立ち上げている。もともと「中央アジアプラス1」は2004年に当時の川口順子外務大臣により、日本と中央アジアとの対話と協力の枠組みとして立ち上げられたのが嚆矢であった。ウクライナ侵攻後は欧米諸国によるこの枠組みでの首脳会合等が活発に行われた。また2023年と2025年に中国が行った首脳会合は、その日程が主要国首脳会議(G7)に重なったことから、中国の西側諸国に対する対抗心の発露との観測を呼んだ。現在では各国が様々なアプローチ、意味づけの下で「中央アジアプラス1」を活用しているといえる。我が国も2024年8月に最初の首脳会合をアスタナで開催する予定であったが、九州沖で発生した地震対応のため岸田首相(当時)の渡航が取りやめとなり、中止となった。

この「中央アジアプラス1」枠組みについて、ロシアのラブロフ外務大臣は、「西側諸国が中央アジアをロシアから切り離すことを試みている」として批判した(TASS 2018.01.15、Sputnik Tajikistan